



令和6年度 事業計画書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

 学校法人 九州国際大学

(令和6年3月28日 理事会)



— 目 次 —

I . 基本方針	1
II . 事業計画	
[九州国際大学]	
1 . 教育概要	3
2 . 学生募集	5
3 . 教育・研究	6
4 . 学修支援	8
5 . 学生支援	9
6 . 地域連携・社会連携	11
7 . 国際交流	13
8 . 就職支援	14
[九州国際大学付属高等学校]	
1 . 教育概要	16
2 . 教育設計	17
3 . 学修支援	17
4 . 生徒募集	19
[九州国際大学付属中学校]	
1 . 教育概要	20
2 . 教科目標	20
3 . 教育設計	21
4 . 生徒募集・学校広報活動	24
[学校法人]	
1 . 人事関係	26
2 . 施設設備整備	27
3 . 社会貢献	28
4 . 財務関係	29
5 . 中長期計画	29
6 . 情報公開	29
III . 令和6年度予算概要	
1 . 事業活動収支予算	30
2 . 予算編成方針等	30

I. 基本方針

[学校法人]

学校法人九州国際大学（以下「本学園」という。）の創立は昭和22年です。以来、“北九州地域の文化向上を目的とし、塾的精神により知識を授けるとともに、誠実有為なる人材を養成する”という建学の精神は今日まで脈々と受け継がれてきています。

本学園の使命・役割は、今日の私立学校を取巻く環境がますます厳しいものへと変化していく中で、地域に立脚し地域に有為なる最高学府を擁する教育機関として、今一度、本学園の原点である建学の精神に立ち返り、余すところなくその精神を汲み現代的変容の中にも先取りの精神をもって常に次世代を見据えつつ、その本分を如何なく発揮していくことにあります。その上で、本学園で働く教職員全員が本学園の新しい教育・経営ビジョンの実現を目指して、実践活動を行うための指針として『学校法人九州国際大学 第四期中期経営計画（2024年度～2028年度：5カ年計画）』を策定しております。

第四期中期経営計画における経営理念として「安定的持続経営」を掲げます。安定的持続経営は、「ミッション」、「ビジョン」、「バリュー」の3つの要素で構成されます。

本学園のミッションは、「単に知識を授けるばかりでなく、塾的精神により、相互に心的鍛錬をなし、もって誠実有為なる人材を養成する」という本学園の建学の精神です。

この建学の精神であるミッションの達成を目指して「教育」、「研究」、「社会貢献」等の活動を如何に実践的、効果的に行うかがビジョンであり、本学園の目指す「あるべき姿」と言えます。ビジョン達成のためには、本学園の構成員が一丸となって取り組むべきバリューが必要です。本学園がこれから具体的に取り組むべき4つのバリューを以下のとおり定めます。

明確な目標を掲げ、達成をめざす
説明責任を果たす

透明性を高める
満足度を高める

本学園に関わる全ての教職員が業務を遂行する際には、学校法人九州国際大学行動規範をお手本として常に心に留め、本学園のバリューを合言葉として活動するという一連の対応こそが本学園の経営の指針です。

さらに、困難な時代を教職員一丸となって乗り越えていくため、「Beyond」という言葉をスローガンに掲げました。「Beyond」という言葉には「～を超えて」「～の先に」「～の向こうに」という意味があります。スローガンとしてこの言葉を掲げることで、その先の新たな時代に向かって積極的に「超えて」いく気持ちを持つ、という決意を表現しました。それと同時にこの言葉は、学生・生徒たちは未来に向かって無限の可能性をカタチにするためにハードルを「超えて」いくことを、教職員はそれを全力で支援するために新しい目標に向かって「超えて」いくことを表しています。

Beyond-可能性をカタチに

そのことばのために
学生生徒が
なれることか

[大学・大学院]

九州国際大学では、建学の精神に掲げる「塾的精神」によって互いに切磋琢磨して精神を鍛え、社会に貢献できる人材の育成に力を注いでいます。

本学の使命・目的及び教育目的を達成するために、法学部法律学科、現代ビジネス学部地域経済学科・国際社会学科及び大学院法学研究科を設置し、それぞれの専門領域等に応じた教育研究活動を行っています。

大学部門では、教育研究活動、地域貢献活動、及び国際交流活動に基づく「教育の質の向上」、「出口の成果が入口の水準向上に繋がる好循環の創出」に向け、“地域に根ざした教育重視の大学”、“国際的視野を持った理論・実践両面に明るい人材の育成”を中期目標に掲げ、教職員が一体となって人材育成に取り組み、卒業後は自立した職業人・社会人として活躍できるよう「就業力」、「学士力」を育ててまいります。

[中学校・高等学校]

付属中学校・付属高等学校は、高等学校の「共学化」という大きな改革を実施して以降、県下トップの志願者を獲得するなど、北九州地域から注目を集めています。今後も、教職員・生徒の力を結集し、「独自性のある」、「活力のある」学校づくりに一層取り組んでまいります。

本校の価値は「授業」であり、それを行う「教師」にあると考えております。授業アンケートや職員研修会を通じて教師力の向上を追及し、「わかりやすい授業」を提供していきます。

今後は、学校評価への取り組みを通じて“地域ナンバーワンの私学”を目指した改革を実践します。

Ⅱ. 事業計画

[九州国際大学]

Beyond

可能性をカタチに

個性の伸長と人格の完成を旨とし、専門知識を教授し、北九州の地域に立脚して、国際的視野を持った理論・実践両面に明るい人材を養成することを目的とします。

VUCA の時代下、地域教育・国際教育を柱として、ステークホルダー（受験生・在学生・保護者・地域社会・卒業生）にとって“魅力溢れる地域No.1 大学”としての Position を確立します。

1. 教育概要

本学は、「教育理念」を次のとおり定めており、地域社会に貢献できる人材の育成に努めてまいります。

<教育理念>

- (1) 本学は、建学の精神に掲げられた「塾的精神」に基づいた教育を実践する。塾的精神の要は、人格を介した信頼関係にあり、教員、学生、職員相互の信頼関係の土台の上に、一人ひとりを大きく育てる教育を行う。
- (2) 本学は、地域社会及び国際社会で信頼される品性高き人材の育成を目標とする。北九州に根ざし、多様な価値観が存在する国際社会に対する理解力を高め、地球の未来を見据えつつ、学ぶ姿勢を生涯貫く人材を育成する。
- (3) 本学は、基礎的能力を備え、理論・実践両面に明るい人材を育成する。社会を透視できる理論の学習と共に、演習・実習を積極的に行い、人間社会と自然環境に共感し、能動的な働きかけができる人材の育成に力を注ぐ。

(1) 法学部 / 法律学科

法学部は、法律の専門的・体系的知識に基づく法的思考力を修得させ、もって理論実践両面に明るい人材を養成します。法律の専門的・体系的知識に基づく法的思考力を修得させるとともに、フィールドワークを通じて実践力を獲得させ、もって地域の行政・企業分野において実務を遂行できる人材、及び企業活動に積極的に関与できる法律のプロフェッショナルを養成するため、2つのコースを設置しています。

[法律学科]

- ◆ リスクマネジメントコース – 警察官や消防官など公務員を目指す –
- ◆ キャリアコース – 組織運営のスペシャリストを目指す –

(2) 現代ビジネス学部 / 地域経済学科・国際社会学科

現代ビジネス学部は、21世紀の社会を展望し、グローバル化の進む世界や地域のビジネス組織、すなわち企業、自治体、民間団体などで活躍できる豊かな教養と知識を有する人材を養成します。

現代ビジネス学部地域経済学科は、経済学や経営学に関する基本的な知識を身につけ、企

業や地域の組織体での就労を通して産業や地域社会に貢献する中堅的な人材を養成するため、5つのコースを設置しています。

[地域経済学科]

- ◆ 経済コース –経済の知識をもとに地域貢献できる人材を育てる–
- ◆ 経営コース –ビジネスリーダーとして地域に貢献する人材を育てる–
- ◆ 地域づくりコース –地域づくりのマネジメントに精通した人材を育てる–
- ◆ 観光ビジネスコース –観光を切り口に地域貢献できる人材を育てる–
- ◆ スポーツマネジメントコース –スポーツを通して地域の発展に寄与する人材を育てる–

現代ビジネス学部国際社会学科は、異文化理解や国際協力に関する知識を身につけ、現代社会のグローバルな変化に対応できる能力を養い、国際社会だけでなく地域社会でも活躍する人材を養成するため、3つのコースを設置しています。

[国際社会学科]

- ◆ 英語コース –国際理解に明るく、高度な英語力を備えた人材を育てる–
- ◆ ハングルコース –韓国を理解し、日韓の橋渡しとなる人材を育てる–
- ◆ 国際コース –現代の多言語・多文化社会で活躍する人材を育てる–

(3) 大学院 / 法学研究科

大学院修士課程は、高度専門職業人の養成を目的としての知識と専門性を高めていきます。

法学研究科では、企業や行政の現場で発生する様々な問題を解決するための法知識の習得を目指します。

2. 学生募集

建学の精神に基づき地域に必要な大学として、また、地域No.1の大学として存続すべく本学の魅力を最大限に引き出し、アドミッションポリシーに基づき、戦略的・効果的な入試広報を実践してまいります。

(1) 媒体を活用した広報

第一志望の志願者確保を目指し、訴求力の高いHPやSNS等を活用した情報発信を強化します。併せて、本学の認知度を上げるための施策として効果的なCMや駅広告による戦略的な広報活動を展開していきます。

(2) オープンキャンパス

本学の魅力を周知できる直接的な広報手段と位置付け、参加者からの高い満足度を得るために、受験生の関心が高い講義からキャンパスライフまでまるごと体験できる魅力的なイベントを企画します。

(3) 進学説明会

北九州地区及び福岡地区で単独説明会を実施し、本学の特色や入学者選抜の変更点などの情報を提供することで、高校の先生方の進路指導に反映頂けるように努めます。また、生徒対象の業者企画による進学説明会についても積極的に参加し、第一志望に選ばれるよう丁寧で分かりやすい説明を実施いたします。

(4) 高校訪問

精力的に高校訪問を展開し、本学の基本情報や在学生情報、就職実績等について定期的に情報提供を行うことで、オープンキャンパスへの参加及び受験の促進を図ります。

3. 教育・研究

教育については、「教学マネジメント指針」で掲げられている「学修者本位の教育の実現」に向け、教育の質保証に関わる基盤と体制を安定的かつ継続的に推進できる環境を組織的・体系的に整えます。学修者目線に立ち、様々な取り組みに対する点検・評価を実施しながら不断の改善に努め、大学の個性や特色を生かした教学マネジメントを構築します。

研究については、研究力強化を目的に、研究活動を取り巻く環境の編制と充実を図り、研究者および大学の特長を生かした学術的な発信・発展を目指します。また、価値ある豊かな研究の土壌を醸成していくため、外部資金の一層の獲得を推進します。

(1) 学士課程教育の体系化及び教学マネジメント体制を支える基盤の確立

学生が4年間で学ぶ道のりを俯瞰できるよう学士課程教育の体系化に向けて継続的に取り組んでいきます。

<重点項目>

- ① ディプロマ・ポリシーと各科目到達目標との関連性、学習内容の順次性を意識した「カリキュラムマップ」等の作成
- ② 教育の質保証と学生本位の教育（何を学び、身に付けることができたのか）の実現に向けた取組強化（単位実質化、成績評価厳格化、学修成果の可視化）。
- ③ 教学マネジメントを支える IR 体制の整備ならびに IR 活動の推進

(2) 初年次教育

学生の主体的な学びを促進し、学士力を備えた学生を社会に送り出すために、学生一人ひとりを大きく育てる教育に取り組めます。

<重点項目>

- ① 「入門セミナー1・2（必修科目）」、「アカデミックスキル（思考）・（表現）（準必修科目）」の配置。
- ② 新入生研修（FM：フレッシュャーズ・ミーティング）の実施
- ③ 体験型学習（フィールドワーク）の実施
- ④ 目的達成支援（PASS：Project of Achievement Support for Students）の実施

(3) PROG テスト(外部評価試験)の実施

社会人として活躍できる能力「ジェネリックスキル（汎用的な技能）」を測定する PROG テストを全学部を導入・実施しています。この PROG テストの結果を参考に、学生個別の力を把握しながら学生の指導に役立てていきます。

(4) 実践型教育の推進

実社会と協働した実践型教育を行い、社会人に不可欠なソーシャルスキルを身に付け、学びのモチベーションアップにも繋げていきます。学生が能動的に学ぶ学習法としてアクティブ・ラーニングを推進し、教育の充実を図ります。

また、社会実習、地域連携活動や海外での体験的な学習機会を設けるために、海外提携校

での語学実習、外国事情研修、国内外でのボランティア活動や企業実習等を開講します。

(5) 大学コンソーシアム関門事業への参画

大学コンソーシアム関門に参画し、教養教育を共同で実施しています。当該コンソーシアムでは、関門地域（北九州市及び下関市）の高等教育機関が相互に連携・協力して各種講義科目講座を提供しており、毎年、本学教員の講義科目は講座を提供しています。

また、大学間で単位互換協定を締結しているため、当該コンソーシアムで受講した科目の修得単位は、本学で認定しています。

(6) 学長裁量経費支援

教学課題の解決や文部科学省の高等教育施策の動向を踏まえた課題等に関する全学的な取組みを支援する目的で学長裁量経費を設けています。地域貢献・国際貢献につながる学生自らの自主的な活動、複数学部・学科等による横断的な取組みや、各学部・学科等における教育改革・教育改善に向けた意欲的な取組で全学的な波及効果が期待できる取組みを選定し、そのためのスタートアップとして支援します。

(7) 研究活動

研究力強化を目的に、研究活動を取り巻く環境の編制と充実を図り、研究者および大学の特長を生かした学術的な発信・発展を目指します。価値ある豊かな研究の土壌を醸成していくため、外部資金の一層の獲得を射程に入れます。今後の実施計画に以下項目を反映します。

<重点項目>

- ① 研究支援体制の強化
- ② 外部資金獲得の支援
- ③ コンプライアンス教育の推進
- ④ 研究成果の情報発信の強化

(8) リポジトリ情報の積極発信

本学教員の研究成果を広く紹介し、関心を高めてもらうため、学習成果リポジトリで公開している論文等の解説やインタビュー記事を作成し、ホームページや機関誌に掲載いたします。

(9) FD・SD 研修

学校法人九州国際大学職員研修規程に基づき、教職員の能力開発及び資質の向上を目的として恒常的に FD（ファカルティディベロップメント）・SD（スタッフディベロップメント）研修等を実施しています。

また、事務職員の階層別研修など、全教職員を対象として定期的に展開していきます。

4. 学修支援

学生の出席（出校）率の向上、並びに大学キャンパスでの滞在時間を増やし、大学生生活の満足度を向上させるため、学修支援、キャリア開発、教育支援など、あらゆる角度においてエビデンスに基づく行動計画を策定し実践します。

「学生の可能性を広げる」教育機能の充実を図り、特徴ある能力を持つ学生を育成し彼らのキャリア開発を強力に支援する大学、また、学生のキャリア開発の選択肢が広く持てる特色ある大学を目指します。

(1) 学生ポートフォリオによる学修成果把握

学生の学生生活の自己管理のために学生ポートフォリオシステム（Assessmentor：アセスメンター）を活用した支援を実施します。

また、「アセスメンター」だけではなく、学生の学習達成度を可視化する仕組みとして「ディプロマサプリメント（卒業時達成度の記録及び自己成長の推移）」の構築を目指します。

(2) 基礎教育センター教育支援

基礎教育センターでは、従来の取組みから前進し、「学生の可能性を広げる」教育機能の充実に向けた取組みを展開いたします。その実現に向けて、エクステンションセンターと連携した課外講座機能の強化をはじめ、以下の取組みを実施いたします。

<重点項目>

- ① 個別指導・グループ指導
- ② 資格取得支援等の学内講座の実施
- ③ 入学前教育の実施
- ④ 初年次教育としてのキョウドリルの実施
- ⑤ SA によるピア・ラーニングの実施
- ⑥ 大学生生活や学修方法に向けた学生生活相談
- ⑦ プレスメントテストの実施
- ⑧ 3大学基礎教育センターとの学術交流会議

(3) 図書館サービスの向上

時代に応じた ICT 活用推進及び書庫の狭隘化対策のため、図書の一部電子化について検討いたします。

また、既存の図書館設備について活用状況を調査し、利用の少ないものについては幅広い観点から、よりニーズの高いものに用途変更しサービスの充実を図ります。

5. 学生支援

貴重な大学生活を有意義に送るため、サークルやアルバイト、ボランティアなどの課外活動、大学祭などのイベント等を通して、周囲と協力し、社会とつながりを意識した取組みを展開します。また、多様性の時代における学生の考え方をもとに、社会の一員として生きる基盤を育ててまいります。

個々の学生が学生生活全般の中で自ら考え、行動する自律性と責任感を備え、ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）づくりに向けて、心身ともに健康な状態で充実した学生生活を送れるようキャンパスライフを支援します。

また、重要課題とされる中途退学に関して、十分な現状分析を行い、中途退学の予兆を捉え、学生の主体性とモチベーションを醸成し、学生のタイプ別のフォローを実践してまいります。

(1) 課外活動の活性化

四協団体（学生自治会・体育会本部・文化会総務委員会・大学祭実行委員会）との連携を図り、課外活動の活性化に向けた取組みを実施します。

<重点項目>

- ① 新入生オリエンテーションを活用したサークル勧誘の実施（目標：サークル加入率 40%）
- ② 自治会主催サークル紹介ガイダンス実施による入部促進
- ③ 新規サークルの設立支援
- ④ 一般社団法人大学スポーツ協会「UNIVAS」での体育系サークル活動の支援
- ⑤ 体育系サークルの指導者、顧問に対する研修会の実施
- ⑥ 学生活動についての研修会実施（目標：1回/年）
- ⑦ 学生活動についてのアンケート実施（目標：1回/年）

(2) 学生自治会(四協団体)運営支援

四協団体（学生自治会・体育会本部・文化会総務委員会・大学祭実行委員会）の活性化と同時に、これら団体の管理運営（イベント運営、事務手続、会計処理等）について教職員が積極的に支援し、自治指導等に努めていくことで健全かつ活気ある学園づくりを目指します。

<重点項目>

- ① 大学祭（橘祭）の来場者集客を意識した取組支援
- ② 四協団体との管理運営に関する定期会合（6回/年）
- ③ 学生自治会主催の連絡協議会実施（春学期：1回、秋学期：1回、計2回）

(3) 学生との交流支援とメンタルヘルス支援

やわらかカフェの認知向上・利用促進に努めます。その上で、学生同士の交流の活発化、メンタルヘルス支援等を目的として保健室と連携を図り、様々な企画を提案します（目標：イベント開催2回/年）。

(4) 学生の意識調査及び学生満足度調査アンケート等の実施

学生満足度を向上させることを目的として、以下の取組みを通じて学生のニーズなどを聴取します。

<重点目標>

- ① 学生自治会主催の連絡協議会での意見交換
- ② 四協学生を中心とした学生団体と大学執行部との学長懇談会
- ③ 学生生活満足度アンケートの実施
- ④ 各種調査結果のHPにおける情報公表

(5) 保護者連絡会の実施

学生の出席状況や学生生活の実態を把握し、成績不振等を解消するために相談会を実施します。また、これらの相談会以外に就職関連の講演会などを開催することで保護者に必要な情報を提供していきます。

(6) 学生の憩いの場の提供

学生の満足度向上に向けて、キャンパスでの滞在時間や憩いの場の提供を意識した取組みを推進いたします。

<重点項目>

- ① 憩いの場としての学生食堂の利用促進
- ② 遊休スペースにおける飲食・談話空間の整備

(7) 障害のある学生に対する修学支援の実施

障害を抱える受験生及び学生に対し、入学試験・授業・修学支援等に関する合理的配慮を行い、教育活動等において共生できるよう取り組んでいます。引き続き、教職員、保健室、やわらかカフェカウンセラーと連携を図りながら、大学全体で障害のある学生からの要望に寄り添い支援いたします。

<重点項目>

- ① 本学支援体制に対する事前の理解啓発の促進
- ② 入学者選抜に関連する事前相談への対応及び適切な配慮の実施
- ③ 学生生活及び修学に関連する相談への対応及び適切な配慮の実施

6. 地域連携・社会連携

大学が有する人的・知的資源等を活用し、地域に立脚する大学として、地域と共に歩み、地域の発展に寄与してまいります。

地域連携センターでは、“人づくりが拓く街づくり”をコンセプトに、「人づくり事業」、「地域連携事業」、「地域研究事業」の3つを柱として地域社会との連携を深め、北九州市の活性化に貢献いたします。

(1) 地域連携推進助成事業

本学の有する学術的な蓄積（人的資源・知的資産）や教職員・学生等の力を活用して、地域づくりに取り組んでいる団体を支援することを目的とした地域連携推進事業を実施しています（目標：採択事業10件）。

(2) 九州国際大学「市民講座・市民相談」の開催

地域連携センターと九州国際大学同窓会（「橘会」）との共催事業として「市民講座・市民相談」を開催しています。日常生活に関連して発生する法的な諸問題について講義を行い、その後も相談窓口となって継続的に市民相談にも応じています。また、自営業者に向けたプログラムを組み込むとともに、学生の実践教育の場としても位置づけて実施します（目標：新規参加者5割確保）。

(3) 北九州市民カレッジの共同開催

地域連携センターでは、市民の多様なニーズに対応した学習の機会を提供するため、北九州市（生涯学習センター）事業の「高等教育機関提携コース」に参画しています。受講ニーズを踏まえ、本学教員を中心に講座編成を行い、年間20講座の提供を目指します。

(4) 北九州市年長者大学校穴生学舎シニアカレッジの共同開催

地域連携センターでは、北九州市社会福祉協議会穴生学舎からの依頼に基づく共催事業として、シニアカレッジを開講しています。

本事業は、年長者のニーズに対応した生涯学習の拠点として、その社会参加の促進を目的とした研修事業です。本年度も引き続き、受講ニーズを踏まえて講座のテーマを設定し、本学教員を中心としたプログラム編成による取り組みで実施回数5回を目途に開講します。

(5) 九州国際大学「地域連携センター独自講座」の開催

地域連携センターでは、本学の人的資源と知的資産を活用し、地域課題解決も視野にいたれたオリジナル講座2講座以上の提供を目指します。市民講座・市民相談と共に寄附講座としての位置付けにも取り組み、本学の地域貢献度を高めていきます。

(6) 地域連携学生ボランティア窓口

地域連携センターにおいては、地域からのボランティア要請に応えられるよう、本学における地域連携学生ボランティア活動の窓口を設けています。通訳ボランティアについては、多言語ボランティアとして2ヶ国語以上での実施を活動指標とします。

(7) 地域課題解決型研究活動の推進

SDGsを踏まえた地域課題解決を視野に入れた研究について、2テーマを目途に取り組みます。その研究成果は、生涯学習講座等で発表するとともに、ホームページや調査研究活動報告書で公表します。

(8) 地域との連携事業

本学と地域の団体や地域の人々との協働による地域の活性化に向けた取り組みを実施し、地域から評価される学園づくりを実現していきます。

(9) 本学学生を主体とする生涯学習の担い手の育成

弁護士、司法書士、税理士、社労士等の士業の資格取得のための学習環境を整備いたします。特にOBを中心とする実務家の方々を講師に招いての学習指導や、実務家講師の方々との交流の促進に尽力いたします。

(10) 高大連携事業

本学では、文部科学省の教育改革（高大接続改革等）や地域社会における課題（三大都市圏への人口流出等）という背景を踏まえて、3つの高大連携（①出張講義、②高大連携、③教育連携）を実施しております。地元企業での活躍を期待する好循環への一助となることを意図しています。

7. 国際交流

留学生を支援する仕組みを充実・強化し、特徴ある能力を持つ留学生を育成し、キャリア開発に貢献します。ここだけの“国際大学”、ここだけの特徴的な学び“を実践し、留学生の就職実績でピカリと光る大学を目指します。

(1) 外国人留学生への支援プログラム強化

協定校からの交換留学生など、外国人留学生が少しでも早く日本の生活に馴染み、日本語能力等が向上できるよう支援プログラムを強化し、以下の取組みを展開いたします。

<重点項目>

- ① 日本語補講講座の企画・開講
- ② Buddy 制度・メンタリー制度の創設による外国人留学生の満足度向上
- ③ 日本語スピーチコンテスト実施

(2) 日本人留学生への支援強化

諸大学との国際交流を推進し、意欲ある日本人学生の海外留学を支援します。海外の諸大学と交流協定を締結し、専攻分野における研究交流や交換留学などを展開します。

<重点項目>

- ① 交換留学制度：協定校（中国・韓国・台湾・インドネシア）への留学（半年又は1年間）
- ② 認定留学制度：海外の大学に留学（半年又は1年間）
- ③ 海外社会実習：主にアジアの国を訪問先とするスタディツアー
- ④ 海外語学実習：長期休暇を利用した語学留学（カナダ・フィリピン・アメリカ・イギリス・台湾・韓国）
- ⑤ ピア・ラーニングを意識した留学報告会の実施
- ⑥ 欧米などの協定校増加に向けた取組みの推進

(3) 選抜学生に対する特別学修プログラム

国際的視野を持った人材を養成するため、海外実習を履修する学生の中から一定の要件を付して優秀な学生を選抜し、海外留学を促進するプログラムを展開いたします。

8. 就職支援

文部科学省の学生支援推進プログラムにも採択された独自のキャリア形成支援プログラム「KIU-SPICE (Kyushu International University Support Program In Career Education の略)」をアップデートし続け、学生の社会的・職業的自立に関する支援を推進しています。

社会人基礎力、人間力、就職力を身に付けるためのキャリア教育と自己理解・自己開発の機会を授けるキャリア支援を統合して、展開する取組みを学生の多様化ならびに変化する就活環境に対応可能なものへ拡充し、就職率 100%を目指して取り組んでまいります。

(1) キャリア形成支援プログラム「KIU-SPICE」

KIU-SPICE は、各種キャリアサポートを統合して展開する体系化されたキャリア形成支援プログラムです。

学生の多様化が進む中で、大学教育の質的保証を図り、学生の主体的人格形成による学士力の確保を目的に、持続的・発展的に取り組み、年々変化を続ける就職環境と地元企業への就職促進に向けて KIU-SPICE はアップデートしてまいります。

(2) 正課授業によるキャリア支援

「KIU-SPICE」を基軸としつつ、正課授業のキャリア教育科目を就職環境に即した内容へと発展させ、正課授業（「キャリアデザイン」、「キャリアプラン」、「キャリアプラン実践」）の科目の中で体系的に業界研究や自己分析、履歴書及び面接指導等を取り入れ、就職活動に直結する教育活動を実践します。さらに、就職支援業務のオンライン化にもいち早く対応し、就職支援オンラインイベントや動画コンテンツの拡充に向け取り組んでいきます。

(3) 職業体験・インターンシッププログラム

本学のプログラムは、入社後のミスマッチ抑制を目指した職業体験型を原則としており、低学年から職業観を醸成する役割を担っています。2年生は「職業体験」により「その仕事・業務について知ること」を目的とし、3年生は「インターンシップ」により「その仕事・業務・職種に対する学生自らの能力を見極めること」を目的としています。そして、実践的なキャリア科目へと段階的に繋げるため、今後も北九州商工会議所との連携を強め、受け入れ企業の拡充も図ります。

(4) 保護者との連携による就職支援

教職員と保護者が本学の求人情報をリアルタイムで閲覧することができる求人検索 NAVI システム「就職支援 NAVI システム」を活用し、大学生だけでなく教職員や保護者の情報ツールとしても役立てていきます。

また、保護者を対象とした、就職支援事業を紹介する動画を作成し、本学卒業生の就職状況、本学で実施している支援内容、「就職支援 NAVI システム」の紹介および使用方法、等本学の取り組みを広く周知します。

(5) 公務員支援システム(エクステンションセンターによるキャリア支援)

例年、エクステンションセンターにおいて公務員試験受験対策講座に特化した内容を実施しており、講師には、専門学校講師や実務担当者を中心としたエキスパートを起用し、適切な受験技術や指導法による高い合格率の実現を目指します。また受講生のみならず全学年を対象にしたサポートデスクの設置により進路相談や模擬面接また添削指導など、公務員と就職の両面から支援していきます。安価な料金設定のうえ、講義時間数も多く、大学に通いながら資格を取得できるばかりか、そのことが同時に就職活動でのアピールにもなります。さらに、目的意識の高い学生同士と一緒に学ぶことで相互に刺激を受け、必然的にやる気を起こさせる相乗効果も期待しています。

Beyond 可能性をカタチに

付属高等学校では、新たな教育目標として生徒の「自走」を掲げており、教師の指示待ちではなく自ら考えて行動できる生徒の育成を目指します。そこには必ず「伴走」が必要であり、教師が傍で見守りながら適切なアドバイスや励ましを行い、地域No.1の高等学校として生徒の可能性をカタチにします。

1. 教育概要

県内トップの受験者数を集める付属高等学校。今まで受け継がれてきた伝統と、北九州屈指の進学・スポーツ実績をもつ学校としての誇りを胸に、より質の高い教育を実現します。“九国付”が掲げるコンセプトは、「知・徳・体」のバランスがとれた人材の育成です。「真の学力伸長は人間的成長なくしてはありえない」という今までの教育実践の中で培われてきた経験から、進学校としての実績に軸足をおきつつも、決して受験勉強一辺倒ではない全人教育を実践しています。高校で過ごす3年間は、将来の基盤となる大事な時期です。学力向上はもちろん、心身ともに健全で社会に貢献できる人間性豊かな人材の育成に努めてまいります。

このような長期的な教育概要を踏まえつつ、同時に保護者・生徒のニーズに対応しながら次のようなグランドデザインを設定して、より時代の変化に見合った教育を進めます。中期的な目標は、それぞれの生徒の希望の進路を実現するための「読解力・表現力」の育成と「自己マネジメント能力」を身に着けるための取り組みです。与えられた課題をこなすだけの指示待ちではなく、自ら考えて計画し行動する人材の育成。私たちはそれを「自走」と表現します。そのような生徒を育成するためには、教師の「伴走」が不可欠です。自主性尊重という名目の放任ではなく、従来型の講義形式を中心とした一方通行型授業に加えて、新たに始まった総合探究活動等を通して双方向型授業を模索しつつ、主体性や協調性を伸ばす組織的な授業改善を目指します。

グランドデザイン

- ① 「読解力」と「表現力」の育成に焦点を当てた、組織的な授業改善を行う。
- ② 「自己マネジメント」能力を身につけさせ、生徒の自走を促す。

自走の場

自ら考えて計画し行動する「自己マネジメント力」を備えた人材の育成
生徒の主体性や協調性を伸ばす教師集団の組織的「伴走」の実践

- 主体性（考え抜く力）
探求型授業、教科横断型授業、読解力と表現力を伸ばす考查、希望進路別課外授業、サタデープログラム（学力向上部門）
- 協調性（チームで働く力）
アクティブ・ラーニング、大学や企業との連携、卒業生による進路ガイダンス、海外留学、グローバルスタディーズプログラム、文理選択 学部・学科オリエンテーション、サタデープログラム（学問探求部門）
- 探求力・表現力（前に踏み出す力）
探求を支える論理的思考の方法を学ぶ、探求練習、探求課題を設定、探求活動の実施、ポスターセッション、中間発表、論文ガイダンス、論文発表、最終発表、志望理由書の作成

～総合的な探究の時間～

本校では近年、総合探究の授業を通して、従来型の受け身的な授業形態からの脱皮を模索しています。生徒達は自らテーマを設定し行動しながら、問題解決の手法とコミュニケーション能力の向上を果たし、各自の希望進路の実現に向けて成長しています。

2. 教育設計「クラス編成」

クラス	概要
難関クラス	少数精鋭でハイレベルな授業を実践する難関クラス。東京大学、京都大学、九州大学や医歯薬系の難関大学への現役合格を目指し、高度かつ綿密な指導を行います。社会常識やマナーも身につけ、確かな学力と豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成します。クラブ活動への参加も可能です。
S 特進クラス	S 特進クラスは、九国付の最上位である難関クラスと常に良い競争意識をもち合っています。同じ校内に互いを高め合えるライバルがいるからこそ、緊張感をもった学習を継続することができます。S 特進クラスと難関クラスは九国付のトップです。
特進クラス	国公立大学への進学を目標に、現役合格を目指す特進クラス。2 年次からは徹底したコース別教育を取り入れ、生徒一人ひとりの能力を高める指導を実践します。毎年、国公立大学に多数の合格実績をあげる原動力になっています。
進学クラス	有名私立大学を初めとする大学進学を中心に、適性に応じて幅広い進路へと導く進学クラス。マナー教育やクラブ活動・ボランティア活動も積極的に推進。個性と才能を伸ばし、更なる成長を促します。
トップアスリートクラス	推薦試験で入学する生徒を対象に 2 クラスで構成。全国的なスポーツ実績を誇るクラブ活動の充実を図るとともに、他クラスと同様に大学進学を目指した授業を行います。スポーツと勉学の両方で頑張りたいと考える生徒たちを精一杯バックアップします。

3. 学修支援

(1) 生徒の「自走」を促すための多様なアプローチ

本校では、近年多様化する大学入試に対応するために、様々な方面からの教育活動に取り組んでいます。各授業においては、習熟度別クラス編成をおこないつつ ICT 機器も活用しながら、思考力・判断力・表現力を高める授業を展開しています。また、主体性や多様性・協調性を育むための学校行事やグローバル教育プログラムも充実させながら、各教科担当教員は研修会や各種セミナーへの参加を積極的に積み重ね、双方向授業の研究やアクティブ・ラーニングの実践を繰り返してきました。さらには英検等の各種資格試験への対応も個別指導の充実を図りつつ、その合格実績を高めています。

(2) 「選択制課外」の導入による新たな視点の入試対策

2021 年度から始まった大学入試改革を視野に入れ「小論文・面接対策」、「資格取得指導」、「大学進学説明会」、「大学特別講義」等を実施することで多様化する大学入試に対応できる体制を整えています。さらには従来の全員必修の課外授業から各自が自分の学習プランに応じて時間割を作成する選択制課外システムを導入し、「自走」する生徒の育成に本格的に取り組めます。

(3) 放課後・休日の学習環境の整備による「自走の場」の提供と教師の「伴走」

従来は、各クラスで自主的に居残り学習を推奨していたやり方を変更し、放課後に自習する生徒を一堂に集めることで集団的学習環境を作り出します。そこには専属のプロのチューターを雇用・配置し、質の高い学習環境の維持と個別の質問対応を担当します。これにより私語や居眠りのないレベルの高い「自走空間」が生み出されます。またそれ以外の全教室を施設・消

灯することにより、夜間の安全管理と節電効果を両立し、学園全体の経費削減にも寄与します。さらには本校教員の負担軽減にもつながり、働き方改革への効果も期待できます。もちろん各ホームルームでの担任の積極的な参加呼びかけも教師の大切な「伴走」であり、結果的には生徒の成績向上による進路実現にもつながります。

(4) 豊富なキャリア教育とサタデープログラム

「学校選びは環境選び」とのスローガンを掲げ、より高レベルな進学を目指したくなる教育環境の提供を戦略的に打ち出しています。たとえば進路ガイダンスは、1年次に文理選択、2年時には大学進学説明会を実施し、希望者には医療看護系や保育系の職業体験も行います。さらには医歯薬系分野を志す生徒を対象にした人体解剖見学も恒例となっており、毎年多くの参加希望者を集めています。

また土曜日を利用したサタデープログラムは、受験対策ばかりではなく、学びを通して生徒の目を輝かせたいという思いから、本校の教員が自身の専門分野や教材研究の成果を生徒達に向けて教授します。まるで大学の講義さながら、教科書の範囲を超えて、各学部への興味関心や学問分野の面白さを肌で感じられる魅力的な企画です。

(5) 関東・関西の難関大学視察

生徒が目標とする進路を実現するため、学力向上への取り組みの一環として、1年次に関東・関西地域の名門大学の視察を行っています。本校卒業生の先輩達に当該大学のキャンパスを案内されながら、ハイレベルな大学を実際に自分の目で見ることにより、受験へのモチベーションを高めます。また各教員の指導意識も高まり難関大学をめざす生徒の学力向上へつなげます。

(6) 地域のニーズに対応した学習環境の整備

本校では大学進学を目指す普通科進学校として、生徒・保護者の希望進路を実現させていくことで地域のニーズに応えたいと考えています。このことは探究活動やクラブ活動の実績が評価される状況においても変わることなく本校の魅力を支える柱だと言えます。そのため各大学をお招きした校内進学説明会の開催や、春夏の学習合宿、また年間20講座を超える大学出前授業の実施等を継続しながら、生徒のモチベーションの維持に寄与したいと考えます。

(7) ICT 機器を活用した学習・進学サポート

各種 ICT 機器を活用しながら、いち早く「目標」を明確にして学ぶ意欲をかき立てるフォロー体制を確立しており、放課後や長期休暇中の特別講座を実施し、それぞれの生徒の希望進路実現に向けての準備を万全にしています。また悪天候時にはオンライン授業を活用して生徒・教職員の安心・安全を保障しながら、学習をサポートしつつ授業時間確保との両立を果たすための教育体制を整えていきます。

(8) ICT 教育改革プロジェクト（略称 ICTEIP=ICT Education Innovation Project）

本校における ICT 教育は日々前進しており、着実に効果が出ているものと考えられるものの、まだまだ全校的・組織的な ICT 教育が行われているレベルにはなく、全教員が ICT 機器を積極的に活用し研鑽を積むと共に、生徒のタブレット PC の利用率が上がるような働きかけ

が必要な状況です。また近年は公立中学においてもデジタル教科書の導入を視野に入れた授業展開が進行中であり、すでに生徒へのタブレット等の配備が一般的となっている状況があります。

このような教育環境の変化に対応するために、本校では「ICT 教育改革プロジェクト」を立ち上げています。このメンバーで、教員に対する ICT 機器活用能力の育成・教科指導における活用・校務情報化の推進・ICT 指導力の向上等の環境整備を目指します。

(9) グローバル教育と留学制度

本校では、グローバル時代に合わせて世界を知り異文化を学ぶため、英会話の授業に加えて、姉妹校・友好校との国際交流や海外留学・研修に挑戦する機会を設けています。たとえば夏休みには韓国、春休みにはオーストラリアへの短期留学を行い、冬休みには韓国の姉妹校をお迎えして異文化交流を実践しています。さらに1年間の海外留学を希望する生徒も毎年6～8人に及び、彼らの多くは帰国後も本校の学校生活に復帰しながら、クラスメイトへの好影響を与え続けてくれています。このようなグローバルな雰囲気の校風が、本校を志望する中学生達にとっては大きな魅力になっているようです。

また希望者を対象とした「グローバルスタディプログラム」を導入し、夏休み中に外国人講師を招き、5日間の英語集中講座を実施しています。この企画は海外留学が実施できないコロナ禍を経て益々ニーズが高まり、費用を抑えながら留学さながらの体験ができる企画として参加者を集めています。

4. 生徒募集「推薦入試改革」

近年、近隣の私立高校はもちろん県立高校でも「特色化選抜」を始めとする推薦入試制度が広がりを見せています。そのため中学生や保護者の意識も変化し、受験生の動向も旧来の状況とは大きく変わりつつあります。

そこで本校でも、従来のスポーツ推薦に加えて昨年度から新たに一般推薦入試制度を導入し、これからの時代の変化にも機敏に対応したいと考えています。導入2年目の一般推薦入試はその志願者数も大幅に増加し、今後は更なる修正を加えながら有望な新入生確保に努めたいと考えます。

Beyond
可能性をカタチに

付属中学校では、「K点突破」を合言葉に教科学習と体験学習のバランスの取れた教育課程を編成し、先進的・独創的な教育活動を展開することで生徒の学力や人間性を育みます。
将来の大学選択・職業選択へとつながる能力の礎を築き、地域No.1の中学校として生徒の可能性をカタチにします。

1. 教育概要

中学校では、「知・徳・体の調和のとれた生徒を育成」、「個性や能力に基づいた希望進路の実現」を教育目標としています。

教育活動全体を通して良き市民たるに相応しい社会性を育てるとともに、体験型の学習を通して個性豊かな人間性の涵養に努め、基礎的な学力を習得させるとともに、思考力・判断力・表現力・発表力を含めた確かな学力を培いながら、進むべき道を自ら自由に選択・決定することを教育方針として、学校教育の充実に努めてまいります。

目指す生徒像として「志を高く持ち、意欲をもって学習に取り組む生徒」、「優しさと思いやりの心をもって積極的に行動する生徒」、「自らに厳しく、責任感を持って、たくましく活動する生徒」を掲げ、成長段階に応じた自立を促し感性豊かな「人間力」を育てます。

また、「K点突破！」を合言葉に掲げ、自分の心の中に限界点を決めず、失敗を恐れず何事にも思い切って挑戦し続けることができるような教育課程を編成し、生徒一人ひとりの夢の実現を目指します。

2. 教科目標

科目	目 標
国語	「言葉」に親しみ、「言葉」を身に付け、「言葉」によって豊かな知性や感性、人間性を育みます。また、文章で表現したり、論述したりすることに対して積極的な姿勢を養い、文章読解力や表現力を養成します。
数学	数学的な見方や考え方を育て、数学を学ぶよさ・楽しさ・必要性を感じるができる授業を展開します。また、授業の中での活動やドリル学習などを通して、原理や法則の理解を深めるとともに、基礎的な技能を習得したり発展的な思考力を伸長したりします。
社会	地理・歴史・公民の学習を通して、現代社会における様々な出来事を自ら考え分析する力、社会を構造的に理解できる力を養います。また、演習の場面を多く設けることで、基本的な知識の定着や応用力の伸長を目指します。
理科	自然に対する興味や関心をもたせるとともに、目的意識をもって実験・観察を行いながら、探究的に調べる能力と態度を育てます。また、グラフやレポート作成、論述などの場面を取り入れ、科学的な思考力や処理能力、論述力を育てます。
英語	英語学習を通して5技能（Listening、Talking、Speaking、Reading、Writing）を向上させるとともに、自分の意見を正確に伝えたり、相手の考えや気持ちを理解したりするようコミュニケーション能力を育みます。また、言語や文化に対する理解を深め、国際的な視野で世界の人々と強調し交流していく資質や能力を育みます。
音楽	幅広く音楽を演奏したり鑑賞したりすることにより、曲の構成や表現方法を感じ取ることができる力の向上を目指します。また、音楽祭に向けた合唱の練習を通して、曲のイメージや各音部の役割を理解する力や、協調して演奏する力や態度を養います。

美術	創り出す喜びを味わい、美術を愛好する心を育てるとともに、豊かな感性や情操を養います。さらに、表現や鑑賞の幅広い活動を、学校行事や生活全般に広げていくことを目指します。
保健体育	適切な運動を通して体力の向上を図るとともに、生涯に渡って運動に親しむ資質や、健康を保持増進したり、安全に配慮したりする実践力を育てます。また、心と体が密接に関係することを理解しながら、健康であり続けるための体作りの素養を養います。
技術・家庭	情報機器の使い方や情報モラルを含め、情報に関する技術が現代社会に果たす役割と影響について学び、それらを適切に評価・活用する能力や態度を養います。自立に必要な衣食住や、家庭の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けます。また、実習を通して、手作りの温かさや大切さを体感し、豊かな生活を営むことができる実践力を育みます。
道徳	道徳の時間や教科・特別活動など全ての教育活動を通して、人間としてよりよく生きることの実現を目指します。生徒と共に考え、探求しながら、道徳的価値に基づく人間としても生き方・豊かな心・道徳的実践力などを育てます。
総合的な学習の時間	様々な体験学習をより効果的なものにするために、事前の調べ学習や事後のレポート作成などにも取り組みます。各種発表会のための準備、教育相談や校長面談に向けての自己分析・エントリーシートの作成などにも取り組みます。机の上の学習だけでは得られない実体験を通して、創造力・思考力・表現力を育みながら、「未見の我」の発見に努めます。

3. 教育設計「未来を創る人へ」

将来をたくましく生き抜き、リーダーとして新たな社会の構築に資する人材を「未来を創る人」と位置付け、その育成を目指して、教科学習と体験学習のバランスの取れた教育課程を編成し、先進的・独創的な教育活動を展開することで、生徒の自己肯定感を育みます。また、将来の職業選択・大学選択へとつながる礎を築き、地域No.1の中学校として、生徒の可能性をカタチにしていきます。

(1) 教科学習

充実した教師の指導力のもと、「input」と「output」のバランスがとれた学習指導を展開し、基礎学力、思考力・判断力・表現力など確かな学力を育みます。

① 柔軟できめの細かい授業体制

本校では1つの学年の教科指導を、複数の教員で担当します。また、3年生については、いずれかのクラスの授業を必ず担当することで、毎年、全ての教員が受験生を指導していきます。

複数で授業を担当するために教科会議を充実させ、指導内容・指導方法の検討、入試問題の分析、個々の生徒についての情報共有等をしなが、組織的・協働的に、受験指導・教科指導・学習指導に取り組みます。

英語や数学においては、1年次から「求むクラス」「究むクラス」を設けて学習体制を複線化したり、3年次後半になると全教科で特別編成授業クラスを設けたり、放課後講座を実施したりするなど、生徒の実態や状況にあわせた授業や時間割を柔軟に編成していきます。

② 創意工夫を凝らしたテストの実施

テストは、能力を測定するだけでなく、身に付けておきたい学力を具体的な形で示す大事なツールでもあります。本校では、従来の定期考査や実力テストに加え、基本的な知識や技能の定着を図る「パーフェクト・トライ」、発展的な思考力や柔軟な創造力、確実な表現力を

必要とする「アクティブ・トライ」、受験のまとめの時期に総合的な学力の伸長を図る「プレップ・テスト」など、さまざまな形のテストを実施することで、生徒の学力を伸ばしていきます。

③ 先進的な学びの展開

従来の教科という枠組みによる教育だけでは、複雑に進化した現代社会に対応することが難しくなりました。そこで現代社会における課題解決をテーマに、複数の教科で協働して学習に取り組む教育活動を企画・展開していきます。

また、生徒一人一人にタブレット型 PC (iPad) とスタイラスペンを所持させ、情報の収集・整理・分析をはじめ様々な学習場面で活用し、学習の高度化・効率化を図っていきます。

(2) 体験学習

五感に触れる学びを通して、自他の幸福を実現する社会の実現に向けて考え・行動する力を育てます。

① 「未来を創る人へ」プロジェクト

「自分もみんなも幸せに過ごせる世界の実現」に向け自分で考え・行動できるように育てる取組みを、『「未来を創る人へ」プロジェクト』として展開します。

1年次は「世の中に触れよう、世の中について考えよう」をテーマに、家族と一緒に考えたことを作文にまとめ発表したり、地域の企業や商店等の経営に携わる方からお話を聞いたりする（社長さんに聞こう）ことを通して、今の世の中の様子を学びます。

2年次は「将来をどのように生きるかを描いてみよう」をテーマに、将来の世の中を自分なりにどのように生きるかを作文にまとめ発表したり、実際に行政に携わっている方からお話を聞いたりする（市役所訪問）ことを通して、世の中が抱える課題や問題点、それらに対する取組みの様子などを学びます。

3年次は「世の中のために自分は何かができるかを表してみよう」をテーマに、国際社会の一員として自分の意見や取り組みたいことを英文にまとめ発表したり、外国で暮らす人々と出会い、文化や習慣の違いを肌で感じたりしながら（海外体験教室）、世界の中で生きる一人の人間としての目標や道標を築いていくようにします。

② 北九ウォーク・宿泊体験教室

日常とは異なる環境の中で仲間との絆を深めたり、日本や海外の人々の暮らしや歴史・文化を学んだりする場として、全学年参加の「北九ウォーク」や、「九国チャレンジ教室（1年次）」、「古都探訪教室（2年次）」、「海外体験教室（3年次）」などの宿泊体験学習を実施します。

③ 個人や集団で活動し表現する場

「音楽祭」「体育祭」「文化祭（文化発表会）」などの学校行事は、日頃の授業や学校生活で培われた能力を最大限に披露する場です。また、進路が決まった生徒が取り組む「自分発表会」は、それまでに培った能力と将来の自分を結びつけることができる場です。このような場の活動の様子から、学校として取り組みを振り返り、総括していきます。

(3) 学習支援

学習への関心を高めさせるとともに、学習習慣を身に付けさせ、自分の力で課題を設定し、解決に向けて取り組む態度や能力を育みます。

① 自主学習への支援体制

日々の学習計画の作成と KTN（家庭学習）の活動を通して、自分が作った学習計画に従って登下校時の所持品を決める「荷物の軽量化」を進めるとともに、実際の学習や生活の様子を記録として残していきながら、生徒が自主的に学習に取り組むことができるように支援していきます。

② 教科特性を生かした学びや活動

年間を通して、詩集や学校誌の制作、学習レポートや授業作品の展示、「百人一首大会」や「英語プレゼンテーションコンテスト」等の学習行事の開催など、各教科の特性に応じた学びの場を設けていきます。また、様々な自然現象に関心を持ち、自分でじかに触れることができるように、理科の実験の場面をより多く設けていきます。

③ 学術コンテストや文芸作品コンクールへの参加

「科学の甲子園ジュニア」や「英語弁論大会」など校外で開催されるコンテストや、自由研究や作文等の様々な作品コンクール等に積極的に参加できる体制を設け、参加者を支援していきます。

④ 三冠王+準2トリプルクリア

英検等の検定は履歴書等に記載できる資格にとどまらず、どの程度まで学習できているかを示すバロメーターにもなります。英検・漢検・数検3つの検定を学習の柱に据え、生徒全員が、3つの検定全てで中学卒業レベルに相当する3級に合格することを目指します（三冠王）。また、複数の検定で高校課程の能力を要する準2級や2級以上の合格を目指す「準2トリプルクリア」への挑戦も支援します。

(4) 生徒指導・生徒支援

人と人との「つながり」を基に良好な人間関係が構築できる環境を整えるとともに、心身の健康やその維持への理解を深めさせ、生徒が自分自身の価値に気づき、自分を大切に生きていこうとする力を育みます。

① 一年次二人担任制

生徒が「中1ギャップ」を克服し、スムーズに中学校生活に入っていけるよう、1年次に男女2人の担任を置き、生徒をきめ細かく観察し指導をしていきます。生徒にとって、相談など担任と気軽に話ができる環境となる上、教員にとっても、生徒をより多面的に見ることのできる確かな指導が可能となり、いじめの起こりにくい環境や、快適に学習に取り組める環境を作っていきます。

② 集団の中での円滑な人間関係の構築

様々な小学校から入学してくる関係上、生徒にとって人間関係を構築することは大きなテーマです。加えて、学齢期の大事な時期に新型コロナの影響を受けた今の生徒たちは、集団での生活に不安を持つ者も少なくありません。

授業・食事・活動など日々の学校生活に加え、クラスマッチ・北九ウォーク・宿泊体験教室などの行事や体験学習を生かしながら、生徒が集団の中で円滑な人間関係が構築できるよう支援していきます。

③ 教育相談・校長面談・スクールカウンセリング

青年期前期の中学生は、友人関係、学校や家庭での生活、学習や進路のことなどで悩んだり苦しさを感じたりすることが多くなる年頃です。そこで、年に2回、個々の生徒と学級担任とが向き合っけてじっくり話をする場を設けています（教育相談）。また、学校長も、年に1回、全校生徒と対面し、夢や目標などについて語り合う場を設けています（校長面談）。

なかには、家族にも学校の先生にも話をするのを戸惑う生徒もいます。そこで、専門のカウンセラーによる「スクールカウンセリング」を実施し、不安を抱える生徒を支援する体制をつくっていきます。

④ 健康であり続けるための体づくり

自分の能力を最大限に発揮するためには「健康の保持増進」が大変重要であることから、家庭科・保健体育科・保健室が中心となり、食事・運動・生活など健康の基になる営みを科学的に捉え・考え・学ぶことで、生涯健康であり続けるための基礎力を育てていきます。

(5) 進路指導

将来のなりたい自分の姿に関心を持ち、進路について考える姿勢や態度を養います。

① 高校自由選択制

中学生にとっては「高校入試」は大切な節目であり、義務教育の学習を総まとめする絶好の機会です。高校進学にあたってどの学校を選択するかは、本人と保護者が決定し、入試に立ち向かわせる方針を取ります。併設校である付属高校への進学は、付属高校を受験すれば原則として保証されますが、よりハイレベルクラスへの合格を目指す高い意識で受験できるよう支援します。

② 高校入試で学力形成

これから生きる子どもたちには、「レベルの高い知識や技能」、「知識や技能を生かした思考力・判断力・表現力」、「知的関心や意欲・学ぶ姿勢」が求められます。子どもたちの将来を考えると、これらの基礎となる力を、中学生のときにしっかり身に付けておくことが大切と考えます。

本校では、高校入試を、学力を形成する絶好の機会と考え、付属高校や公立高校の入試問題に取り組みながら「知識や技能」「思考力・判断力・表現力」を育てていきます。

4. 生徒募集・学校広報活動

様々な媒体を活用して「本校のよさ」を展開し、3学級体制を安定して維持できる質・数の入学者を確保していきます。

小学生やその保護者が来校する場として「オープンスクール」「学校見学ツアー（夏・秋・冬）」「九国プレ（入試模擬試験）」では、学校の説明に加え、在校生の授業の様子を見たり、iPadを使った授業を体験したりできるようにします。

ホームページに加え、インスタグラムを使って学校の様子を動画で紹介するなど、様々な方法で学校のイメージを発信していきます。

また、創立 25 周年の節目として、マスコットキャラクターを作成し、学校のブランド力向上を目指して様々な場面で活用していきます。

Beyond

可能性をカタチに

学校法人九州国際大学は、学生生徒のみなさまの可能性をカタチにすることを第一に、多様なニーズや社会の変化に対応した教育環境の整備を行ってまいります。

また、教育の場に従事する教職員の資質能力を最大限に引き出し、教育効果を高める施策を展開することで、経営を好循環に導く行動変革を促します。

1. 人事関係

(1) 組織・風土・人事改革

令和5年度に運用を開始した事務職員新人事制度により、これまでの年功序列型の処遇制度を見直し、明示された役割や職務の遂行結果を公正に評価することで納得性の高い処遇を実現し、さらに体系的な教育研修を実施しながら動機付けを促進します。

令和6年度には事務組織の再編成および事務職役職者の再配置を行い、縦割り組織から横断的組織へと機能を強化し、業務推進力と人材育成力を高めることで、事務業務の平準化と事務職員の業務互換性を拡大し、事業規模に見合ったスリム化を目指します。

賃金政策においては、現行制度の再構築による再配分施策の検討を開始し、付属高等学校および中学校の教員については、貢献と処遇の均衡を図るため、人事給与制度の再構築を検討します。

また、ハラスメントの防止体制を強化する目的で既存の枠組みを見直し、実効力と機動力を高めることで、教職員の人格的利益を守り法的リスクを軽減します。

大規模自然災害等からの復旧対応の高度化を目指し、令和4年4月1日に制定された学校法人九州国際大学業務継続計画（BCP）第1版を改定し、学内浸透を強化します。

<重点項目>

- ① 事務職員新人事制度の推進および深耕
- ② 階層別研修による人材育成強化
- ③ 給与制度／賞与制度の再構築による再配分施策の検討
- ④ 付属中学校および高等学校対象の新人事制度の検討開始
- ⑤ ハラスメント防止・対策体制の整備
- ⑥ BCP改定および啓蒙活動の推進

(2) ウェルビーイング活動

教職員が心身ともに健康で社会的にも満足できる「ウェルビーイング」を重視した職場環境を実現するために、所定労働時間の短縮や年間休日数見直しの検討を開始し、労働環境の向上を促します。

また、学外有識者との連携を深化し、労働関係法令の遵守と労務管理の徹底を行います。

併せて、安全衛生委員会の機能を強化し、「職員の健康保持増進」、「安全な職場環境の保持・改善」、「労働災害の防止」等の推進力を高めます。職員の健康保持について、引き続き健康診断及びストレスチェックの結果等に基づき、産業医との連携を図りながら、新たな健康増進施

策を講じていきます。労働災害については、継続した啓蒙活動を行い、発生数の軽減および防止を図ります。

<重点項目>

- ① 所定労働時間および年間休日数の見直し検討
- ② 労務データおよび人件費データ等の分析と可視化
- ③ 顧問社会保険労務士との連携体制の整備
- ④ 安全衛生委員会の再編成
- ⑤ 健康増進施策の企画立案、実施
- ⑥ 労働災害軽減および防止策の実施

2. 施設拡充関係

法令順守や学生生徒の安心安全を確保するものを最優先とし、第四期中期経営計画を踏まえ、質の高い教育研究環境の確保に向けた機能向上はもちろん、施設の劣化・損傷に対応する修繕、設備機器の点検保守をはじめとした保全計画の策定に努め、整備・保全費用の平準化に向けたファシリティ・マネジメントを強化します。

キャンパスの満足度を高めるアプローチとして、データやエビデンスに基づくファシリティの分析を行い、現状を可視化します。コストミニマムでキャンパスの価値を最大化するため、設置する学校の定員規模や機能性を意識した将来のキャンパスのあり方を考え、施設設備の持続性（サステナビリティ）を向上させます。

<重点項目>

- ① 戦略的な施設アセスメントの実施
- ② 修繕・保全計画の見える化及び予防保全への転換
- ③ 所有建造物の長寿命化計画に基づくファシリティ・マネジメント
- ④ SDGs を意識したコスト削減・環境負荷低減対策
- ⑤ 魅力あるキャンパスづくりに向けたアクションプラン
- ⑥ 教授法改革と連動した教育の情報化支援

(1) 機器・備品整備関係(主な事業)

部門	設置場所	件名
平野キャンパス (大学)	KIU ホール 学生ラウンジ	ミーティングテーブル・チェア
	メディアセンター サバール室	教務システムグレードアップ機器更新
	メディアセンター 図書館カウンター	磁気消去/再生器 (図書用)
	メディアセンター 図書館事務室 平野キャンパス	ジェルジェットプリンター (リコーSG2300) 教職員用オフィスチェア
枝光キャンパス (高等学校)	B 棟 進路指導室	ミーティングテーブル・チェア・大型書架
	C 棟 食堂	OS 手動スクリーン (120 インチ)
	B 棟 第二職員室	カラー複合機 (富士フイルム・エプソン)
	B 棟 職員室・事務室	教職員用オフィスチェア

枝光キャンパス (中学校)	アセンブリホール・武道館等	枝光キャンパス Wi-Fi 環境追加整備事業
	A 棟 エントランス A 棟 ロビー	AED 一式
	A 棟 教室	生徒用机・椅子
	A 棟 職員室・事務室	教職員用オフィスチェア
	共用棟 小会議室等	枝光キャンパス Wi-Fi 環境追加整備事業

(2) 施設整備関係(主な事業)

部門	設置場所	件名
平野キャンパス (大学)	メディアセンター 閉架書庫	空調取替工事
	メディアセンター・研究棟他	受電設備盤 (VCB・OCR) 改修工事
	学生専用駐車場	アスファルト部分舗装工事
	1号館～KIU ホール	高圧ケーブル取替工事
	2号館	屋上防水改修工事
	平野キャンパス内	消防設備更新工事
枝光キャンパス (高等学校) (中学校)	D 棟 屋上	吸収式冷温水機取替その②工事
	D 棟 屋上	屋上防水改修工事
	A 棟～3号館 階段	階段補修工事
	A 棟～共用棟	高圧ケーブル取替工事
	共用棟 外通路	通路土間補修工事
	共用棟 バルコニー他	屋上防水改修工事
	第1体育館	屋根改修・アリーナ床補修工事
	第2体育館	出入口扉取替その他工事
	第2体育館	天井照明取替工事
	A 棟・E 棟	吸収式冷温水機部品取替工事
	武道館	卓球場カーテン取替工事
	枝光キャンパス内	消防設備更新工事

(3) 情報政策関係(主な事業)

多様なニーズに対応する教育、Society 5.0 時代を担う人材育成等を視野に、将来の教育のあり方を考え、先進的な ICT 教育環境を整備します。

同時に、効率的・効果的な業務運営を推進するために情報通信技術を活用した施策を講じていきます。

<重点項目>

- ① 大学生に対する PC 必携化を前提とした授業等での活用推進
- ② 大学・付属高等学校間の連携による ICT 活用事例の情報交換及びノウハウの共有
- ③ モバイル PC を活用したアクティブ・ラーニング形式の教育環境の検討
- ④ ハイフレックス型授業の実施に対応した教育システムの検討
- ⑤ SDGs 及びペーパーレス化推進を意図した学生向け印刷サービス制御システムの導入

3. 社会貢献関係

本法人が「北九州 SDGs 登録制度」及び「福岡県 SDGs 登録制度」の第一次登録事業者であることを受けて、SDGs の達成に向けた活動を実施しています。

地域密着型の総合学園として、その特色を活かし、地域をフィールドとした調査・研究・学修等の諸活動を通じて、地域に必要とされる学園となるために、教職員・学生・生徒が一丸となって活動を加速いたします。

4. 財務関係

安定的な収入を確保し、経常収支差額の均衡を意識した支出構造を維持します。そのうえで、教育の質向上、九国ブランドの強化に資する投資計画について、設置学校の計画と財務計画の整合性を図り財務計画に組み込み、費用対効果の最大化を図るよう PDCA サイクルを好循環に導きます。

令和 6 年度予算は、『第四期中期経営計画（2024～2028：5 年）』に掲げた計画を具現化するため以下の項目に重点を置いた事業を予算化しています。

<重点項目>

- ① 教育の質保証に向けて学校の魅力を高める教育改革への投資
- ② 学生生徒の満足度を高める教育環境整備への投資
- ③ その他学園のブランド力向上に寄与する取組みへの投資

5. 中長期計画関係

令和 6 年度は、『第四期中期経営計画（2024～2028：5 年）』を策定し、あらたな 5 年計画を実行する初年度となります。経営理念に掲げたビジョン達成のため、計画の進捗状況及び達成度のプロセスを可視化し PDCA サイクルを円滑に廻していくために数値目標（KPI 指標）を設定し、目的の達成に向けて業務を遂行してまいります。

6. 情報公開

私立学校法第 47 条及び私立学校法の一部を改正する法律（平成 16 年法律第 42 号）等の法令に基づき、財務情報・教育研究活動等の情報をホームページ等で積極的に公表していきます。このほか、「学園情報誌（キュウトビ）」等を発刊し、本学園の取り組みや財務情報、学生活動を紹介するなど、広く情報提供するとともに「大学ポートレート（私学版）」へ情報公表についても、必要に応じてメンテナンスを実施していきます。

Ⅲ. 令和6年度予算概要

1. 事業活動収支予算

(単位：百万円)

科目		予算	備考	
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2,451	
		手数料	76	入学検定料等
		寄付金	0	施設関係寄付金は特別収支に計上
		経常費等補助金	1,050	施設関係補助金は特別収支に計上
		付随事業収入	59	寮、エクステンション講座等の補助活動収入
		雑収入	155	施設設備利用料等
		教育活動収入計	3,791	
	支出	人件費	2,245	
		教育研究経費	1,365	
		管理経費	411	事務管理費、学生募集経費
徴収不能額等		0		
	教育活動支出計	4,021		
	教育活動収支差額	▲230		
教育活動外収支	収入	教育活動外収入計	6	受取利息・配当金
	支出	教育活動外支出計	0	
		教育活動外収支差額	6	
	経常収支差額	▲224		
特別収支	収入	資産売却差額	0	
		施設設備寄付金	20	
		施設設備補助金	6	
		特別収入計	26	
	支出	特別支出計	0	
	特別収支差額	26		
	[予備費]	50		
	基本金組入前当年度収支差額	▲248		
	基本金組入額合計	▲197		
	当年度収支差額	▲445		

※1) 上記の事業活動収支予算は学校法人会計基準に基づくもので、単年度の収支を3つの区分(教育活動収支・教育活動外収支・特別収支)毎に表示したうえで全体の収支を示したものです。

※2) 単位未満を四捨五入しているため、実際の計算書類の合計と一致しません。

2. 予算編成方針等

グローバル化や情報通信技術の進展、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化、複雑化する諸課題への対応が必要となっています。教育機関においては、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて、知識を活用し、付加価値を生み、イノベーションや新たな社会を創造していく人材や、国際的視野を持ち、個人や社会の多様性を尊重しつつ、他者と協働して課題解決を行う人材が求められています。

このように、加速度的に変化する社会において、学校法人九州国際大学第四期中期経営計画(2024-2028)の経営理念に掲げる「地域No.1」の学園を目指して発展するためには、教育改革(教育の質保証)を推進していくことが重要課題となってきます。同時に、これらを実践するためには「安定的持続的経営」に向けて経営基盤を一層強化していくことが極めて重要であると考えております。

令和6年度予算については、事業活動収支における基本的な構造が均衡することを目指し、その考え方を基軸として、第四期中期経営計画の経営理念に掲げる「地域No.1」の学園を実現するためのイノベーションへ投資について予算措置したため、支出超過の予算となっています。



発行 / 学校法人 九州国際大学 法人事務局
〒805-8513 北九州市八幡東区平野二丁目 5-1
TEL : 093-671-8900 / FAX : 093-671-9032